

四国新幹線

	タイトル	意見等
1	四国新幹線の実現	○四国新幹線の実現においては、長期的な将来の展望に立って超伝導リニア四国新幹線です。
2	四国新幹線について	2026年8月7日、四国新幹線が国土交通省の調査対象になりました。その点についてはうれしく思っています。 同じ日に、東九州新幹線も調査対象として選ばれました。 そこで、瀬戸大橋ルート四国新幹線と山陽新幹線と東九州新幹線の接続による徳島から広島・山口・博多・大分・宮崎・鹿児島 of 所要時間の変化についても徳島県で調査して県民に説明すれば、県民にも納得してもらえると思います。
3	四国新幹線	新ホール同様、税金の無駄遣いはこれ以上やめてください！ 高速道路の完全四車線化、LCCへの乗り入れが先です！ なぜそれが理解できないのか不思議でなりません！
4	関西圏・山陽圏双方との結びつきを強化する四国新幹線の段階的・現実的推進案	徳島県におかれましては、近畿圏に最も近い立地を生かした広域経済圏の構築と交通網の整備にご尽力されていることに深く敬意を表します。四国新幹線の実現に向け、国の予算化を現実のものとするための戦略的な提言をいたします。 四国新幹線の議論において、本県では「明刺海峡・紀淡海峡ルート」か「岡山ルート（瀬戸大橋）」かが論点となりますが、国の早期事業化（整備新幹線格上げ）を勝ち取るには、すでに橋梁インフラが存在する「岡山分岐・瀬戸大橋ルート」からの第一段階整備が最も現実的で近道です。 瀬戸大橋の下段に存在する未利用空間に単線の標準軌を敷設し、「単線フル規格」で宇多津・坂出ハブへ繋ぐ方式を採用すれば、海峡部の新規建設費を回避し、全体事業費を大幅に圧縮できます。この四国幹線の基盤を早期に確立させた上で、香川県高松市から徳島方面への段階的な延伸（高德線軸の活用・新線整備）を図ることが、本県にとっても最も投資効率が高いアプローチとなります。 このルートが早期実現することにより、本県は関西圏のみならず、山陽新幹線を介した「広島・博多方面」とのダイレクトな高速鉄道網を手に入れることができます。これまで手薄だった中国・九州地方からのインバウンドや観光客を徳島へ呼び込む強力な動機付けとなり、阿波踊りや鳴門をはじめとする観光資源の価値を再引き上げします。さらに、四国東部の産業・物流の速達性向上にも寄与します。 「将来の関西直通構想」を視野に入れつつも、「瀬戸大橋活用・単線フル規格」を四国全体の共通方針として後押しすることが、結果として本県への新幹線延伸を最も引き寄せる選択肢になると確信いたします。